

## 「校友システム(MAIS)開発の頃(その2)」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学情報科学センター 公開日: 2010-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菅野, 直行 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/7918">http://hdl.handle.net/10291/7918</a>

## 校友システム (MAIS) 開発の頃 (その2)

教育研究システム課長 菅野 直行

『創立 120 周年記念事業募金報告書』が本年 1 月付で公表された。結果は下記のとおり、目標額の百億円を達成できなかった。しかし、百周年のものと比較すると全て対象群の応募額が上廻っている。その内容をみたい(括弧内は本学の百周年の数値)。

法人、校友および教職員の伸び率が高いが、今回の 1 件当たりの平均応募額は次のようになっている。法人の 1 件当たり平均額は 253.5 万円(116.3 万円)、校友は 6.8 万円(5.7 万円)、父母は 16.4 万円(13.6 万円)、教職員のものは 38.6 万円(14.7 万円)である。件数も法人の 1,092 件(577 件)で、校友は 30,834 件で百周年の 4.2 倍増にあたる。父母および教職員の件数は、ほぼ百周年と同じように推移している。

今後の課題は、法人および校友募金ではなかろうか。100 億円規模の大型のものになると法人募金の強化なしに達成できない。恐らく 2,000 社レベルの協力が必要になる。日本の企業風土を考えると、法人募金は理事会レベルの仕事になるのであろうか。大学のトップが訪問しないと、企業のトップに会うことも不可能であろうから。困みに、早稲田の百周年での法人募金 1 社当たりの平均額は 455.6 万円・2,306 件で、慶応の 125 周年の場合、636.3 万円・2,097 件であった。

校友については早稲田の百周年(件数は 69,087 件と多い)の平均額 4.1 万円より良いが、なんらかの努力が必要であろう。今回、校友の応募件数が増えたのは、校友システムに依拠し、募金期間を通じて継続的な活動ができたからであると思っている。

2002 年 3 月 16 日に個人募金終了の際、募金申込総額が 947,629 万円であったと記憶している。それから約 15 億円が消失しているが、経緯はわからない。

創立百周年及び 120 周年記念事業募金の比較

	百周年記念事業募金		120 周年記念事業募金	
	金額	比率	金額	比率
法人	671,150,000	20.0%	2,768,337,345	34.9%
校友	446,913,920	13.4%	2,106,033,497	26.5%
父母	2,002,840,605	59.9%	2,454,653,098	30.9%
教職員	219,077,832	6.6%	579,987,920	7.3%
一般篤志家	4,475,416	0.1%	29,346,300	0.4%
合計	3,344,457,773	100.0%	7,938,358,160	100.0%

創立 120 周年記念事業募金の金額は「入金額」(創立 120 周年記念事業募金報告書, 06. 1)。各募金パートの個人・団体は合算。